平成30年度第２回「横浜市地域公共交通会議」	
日　　時	平成30年12月25日（火）14時00分～15時00分
開催場所	ヨコハマジャストビル１号館８階　３号会議室
開催形態	公開（傍聴者４人）
議　　題	(1)　（株）共同からの提案事項 ・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の運行計画の変更について (2)　ヒノデ第一交通（株）からの報告事項 ・旭中央地区「四季めぐり号」の実証運行の実施について
内　　容	**(1)　（株）共同からの提案事項** **・資料１　小雀地区乗合バス「こすずめ号」の運行計画の変更について** （事業者）　小雀地区乗合バス「こすずめ号」の運行計画の変更について説明。 （委員）　減便案について地域からどのように了解を得ているのか。 また、今後はどのような方向で地域は考えられているのか。 （事務局）　減便についてアンケートを実施していますが、現在集計中です。今回の案については、町内会長はじめ地域から概ねご了解を頂いています。今後については利用状況を見ながら、採算性について運行継続のためにどこまで改善していく必要があるかを見定める必要があると考えています。 （委員）　減便となると負のスパイラルに陥る恐れがある。正のスパイラルに持っていくため、道路局だけでなく市全体として、しっかり関わる必要があるのではないか。 （事務局）　負のスパイラルに陥らないように、啓発活動や利用促進について地域と検討しながら進めたいと考えています。また、道路局だけでなく、区役所や健康福祉局などと連携し、高齢者の移動支援をどのように進めるか検討しています。加えて、採算性の確保のため、車両代等の初期費用の助成を考えています。 （委員）　これまで目標人数は200人ということだったが、減便する場合は目標人数を何人とするのか。 （事務局）　採算性など事業者と調整し、地域と検討した上で明確な目標値を定めていきたいと考えています。 **(2)　ヒノデ第一交通（株）からの報告事項** **・資料２　旭中央地区「四季めぐり号」の実証運行の実施について** （事務局）　旭中央地区「四季めぐり号」の実証運行の実施について説明。 （委員）　今回の目標人数は効率化等により採算性が確保されているのか。 （事務局）　具体的な目標人数は今後設定したいと考えていますが、前回同様100人程度の利用がないと採算は取れないのではないかと考えています。 （委員）　今回の効率化とは具体的にどのような内容か。また、運行本数に変更があるのか。 （事務局）　運行ルートについて、前回利用者が少なかったルートの一部を変更し、

	効率化を図り、前回の夕方の２便に近いルートとなっています。運行本数は変更せず、ルートの変更により燃料費の削減、所要時間の短縮等の効率化を図っています。 （委員）　駅から駅へと向かうルートとなっているが、高齢者をはじめこの地域で生活している方、通勤通学の方など、利用者のターゲットと時間帯に応じてルートを調整することで利用促進に繋がるのではないか。 （事務局）　運転手一人で、朝９時頃から夕方７時頃まで運行する計画のため、朝の通勤通学の利用は難しいと考えています。利用者のターゲットは地区の高齢者としており、これまでの実績から利用が非常に多かった二俣川駅と当該地区を結ぶルートとしています。今後、利用状況やご要望などを踏まえルート等の検討をしていきます。 （委員）　これまで、この地区内で採算性の確保が難しいのであれば、ルートを変えて他の地域を通るなど検討してはどうか。 （事務局）　この地区に隣接して多くの利用が見込める地域が見られないこと、車両が小さく一度に乗車できる人数に限りがあること、ルートが長くなると所要時間が増加することから減便する必要があることなど、様々な要素を慎重に検討する必要があります。利用者を増やすため、利用促進を検討する必要はあると考えています。 （委員）　運行を継続するためには採算性が確保されるということが一番大事だと思うので、この一年間の実証実験で課題の洗い出しをお願いしたい。前回は乗りこぼしの時にタクシーの代替を出していたと思うが、今回はどうなるのか。 （事務局）　これまでの実績から、夏季に乗りこぼしが出るものの、他の季節は乗りこぼしは出ていないことから、車両を 13 人乗りから９人乗りに小さくしても対応できると考えており、タクシーの代替は考えていません。 （委員）　一度廃止になったところが復活するのはとても良いことだ。効率化によるコスト削減で目標人数が変わり、そのために地域がどれくらい協力しなければならないのか、数字で見えてくるともう少し分かりやすいのではないか。４月の実証運行開始前までに目標を関係者で共有し、目標が達成できるよう努力して欲しい。毎日利用することも大事だが、毎日は利用しない人が年間何回利用すればよいか、居住者数から割り出して示すのも良いのではないか。少しずつ地域で協力することで目標は達成できるのではないか。 また、路線の通り方や停留所の位置はそれなりのプロセスで見直せるので、継続的に見直し、有意義な実証運行となるよう期待している。 以上